オリンピック代表が決定!!

第24回オリンピック・ソウル大会 日本代表選手団

監　督	野田　　清	1946年4月15日生	大同特殊鋼	169cm	75kg
コーチ	津川　　昭	1951年8月3日生	湧永製薬	180cm	80kg
支援コーチ	佐藤　要二	1949年10月16日生	本田技研工業	180cm	88kg
支援コーチ	塙　　敏	1950年8月18日生	中京女子大学	169cm	75kg
選　手					
GK ①	井藤　英忠	1959年3月10日生	湧永製薬	185cm	85kg
GK ⑫	矢内　　浩	1960年8月1日生	大崎電気工業	189cm	85kg
GK ⑯	橋本　行弘	1965年9月17日生	本田技研工業	185cm	80kg
FP ②	西山　　清	1959年4月8日生	日新製鋼	181cm	77kg
FP ③	山本　興道	1960年2月8日生	大崎電気工業	183cm	83kg
FP ④	玉村　健次	1960年12月11日生	湧永製薬	182cm	80kg
FP ⑤	荷川取義浩	1961年12月4日生	湧永製薬	185cm	90kg
FP ⑥	首藤　信一	1965年1月10日生	大崎電気工業	187cm	84kg
FP ⑦	藤井　　泉	1959年6月26日生	日新製鋼	180cm	74kg
FP ⑧	高村　誠一	1960年12月11日生	大同特殊鋼	188cm	83kg
FP ⑨	立木　浩二	1960年4月28日生	本田技研工業	184cm	78kg
FP ⑩	田口　　隆	1961年7月23日生	本田技研工業	183cm	76kg
FP ⑪	宮下　和広	1961年8月6日生	大崎電気工業	187cm	84kg
FP ⑬	奥田　新治	1959年6月11日生	湧永製薬	183cm	76kg
FP ⑭	山村　敏之	1964年7月9日生	本田技研工業	177cm	70kg

本年9月よりソウルにて開催される第24回オリンピック大会の日本選手団が、6月18日の日本協会全国理事会で決定、発表されました。

ヨーロッパの遠征では強豪のユーゴと引き分けるなど、全日本チームの意気もおおいに上がっており、ソウルでの好成績を期待したいと思います。

尚、野田監督以下選手たちの抱負については、次号でお届けしたいと思います。

第29回全日本実業団選手権（女子の部）

大崎電気が連覇

5月13日～15日・愛知県半田市体育館

第29回全日本実業団選手権大会女子の部は、5月13日から15日まで愛知県半田市体育館で開催された。

ここのところ各チームとも戦力の補強、変動の激しい女子実業団チームの戦いは、そのときの状態で勢いに乗るチームが違ったりしているようで、大変興味が持たれたが、昨年優勝の大崎電気が、やはり抜き出た実力を見せ、安定した戦いぶりで勝ち抜いて2年連続4回目の優勝を飾った。

1回戦

JUKI 27（15−9、12−15）24 ソニー国分

〔戦評〕ソニー・藤元のロングシュート2本から試合が始まったが、初戦のためか両チームともにボールが手につかない面がみられた。前半は、JUKIの守備から速攻への流れがよく得点を重ね、ソニーは藤元が一人でロングで反撃した。後半は、ソニーの動きがよくなりサイドシュート、速攻と幅の広い攻撃で3点差まで追い上げたが、20分、速攻で出た崎元が着地の際に負傷し、追い上げムードに水をさされてしまった。ソニー・藤元のロングシュートとJUKI・古谷の速く鋭い動きの目だったゲームであった。（久世雅人）

得	〔ソニー〕		〔JUKI〕	得
0	阿多石	GK	大角	0
0	山元		石塚	0
1	斜木	FP	佐藤	6
2	宮原		上田	0
0	白石		嶋田	2
2	崎元		内山	0
2	東郷		樋口	0
2	山口		伊原	3
11	藤元	（審・門井、杉山）	古谷	7
0	楠本		大林	2
0	当房		熊谷	7
4	永尾			
24	(2)	PT	(3)	27

ジャスコ 27（12−7、15−6）13 北国銀行

〔戦評〕ジャスコは出足GKの好守と固いディフェンスで、北国銀行の攻撃を10分間1点におさえ、攻めてはスピーディーな攻めで7−1とリードしゲームの主導権を握った。その後も小気味よいロング、サイドで加点、北国銀行も速攻でくい下がり前半12−7で終了。後半に入っても、ジャスコのスピードは劣えず後半はじめの5連販を含め、たたみかける攻めで15分22−12と差を開いた。北国銀行も最後まで必死のプレーを続けるが、ジャスコのスピードをとめきれず退場者も出て差をつめきれなかった。ジャスコのスピードが光るゲームだった。（加藤照信）

得	〔北国〕		〔ジャ〕	得
0	木戸	GK	吉田	0
0	岩井		小林	0
1	上田	FP	服部	0
2	林		佐々木	1
1	松田		石田	2
4	北川真		近藤	3
2	川崎		池田	2
0	塙		渡辺	2
2	北川静	（審・岩本、板倉）	川井	10
1	金		武田	0
0	森		稲田	2
0	鈴木		王	5
13	(2)	PT	(3)	27

大和銀行 17（9−8、8−5）13 日本ビクター

〔戦評〕立ち上がり大和銀行が2点を先取、ビクターはシュートミスを重ね攻めあぐんだ。5分後、ビクターは得点を連取して追いつき調子が出た。大和銀行は鈴木のロングシュートで再びリード、前半残り3分で3点差をつけたが、ビクターは2点を返し前半は9−8。後半開始5分間両チーム無得点、その後ビクターが3点連続得点して逆転、しかし大和銀行も速攻で追いつく、10分後大和銀行のゴールインの審判をめぐって5分間中断。試合再開後、ビクター緊張の糸が切れたようで4連続得点を許した。大和銀行が波に乗り勝った。（竹内泰平）

得	〔日ビ〕		〔大和〕	得
0	小口	GK	増見	0
0	高橋		坂口	0
1	武藤	FP	丸田	3
6	長田		鈴木	4
3	枝川		赤瀬	0
0	下條		上村	4
0	平松		小池	4
1	根本		藤本	2
2	太田	（審・渡辺、楓）	渡辺	0
0	永岡		袰川	0
0	中村		瀬川	0
0	山之内		松田	0
13	(2)	PT	(4)	17

ブラザー工業 33（19−4、14−4）8 ムネカタ

〔戦評〕前半ムネカタがパスミス、シュートミスを重ねるうちに、ブラザー工業が板倉、野田のシュートで得点をあげペースをつかみ大差をつけた。後半、ムネカタは佐藤のペナルティーやポストの桜井を45度にあげるなどの攻撃で追いあげをはかったが、ブラザー工業のペースをくずすことができなかった。（村瀬慶洋）

得	〔ムネ〕		〔ブ工〕	得
0	遠藤	GK	大藪	0
0	我妻		岡本	0
0	伊藤	FP	荒木	3
4	佐藤		末永	6
0	川名		原田	1
2	太田		板倉	6
0	桜井		道上	3
0	高橋		松尾	1
2	上遠野	（審・清水、太田）	久保田	2
0	仲野		大久保	1
0	菅野		野田	8
0	佐々木		甲斐	2
8	(3)	PT	(7)	33

2回戦

大崎電気 34（21−9、13−15）24 JUKI

〔戦評〕小柄なJUKI、スピードで大崎に攻めこむが守りを崩せず、大崎に速攻を許し点差を開かれる。大崎は金のパスからポストシュート、パスと見せてのカットイン、尹のロングとリズムに乗った攻撃で前半を終わる。

後半JUKIは尹へのマンツーが成功し、大崎のリズムを崩してパスカットから速攻、相手のミスから速攻と流れを呼びこんだ。し

かし、その流れを食い止めたのは尹。尹のフリースローからのシュートにより大崎は再び落ち着きを取り戻し、その後は互いに点の取り合いとなった。JUKIの後半のはつらつとした試合運びの印象が強く残るゲームであった。（日比登史男）

得	〔大崎〕		〔JUKI〕	得
0	佐々木	GK	大角	0
0	宗片	GK	石塚	0
3	森田	FP	佐藤	6
3	松尾	FP	上田	0
0	須永	FP	嶋田	7
4	前川	FP	内山	0
5	梅原	FP	伊原	1
5	江口	FP	柴崎	0
0	野田	FP	古谷	1
1	鈴木	FP	大林	3
10	金	FP	熊谷	6
6	尹	FP		
37	(4)	PT	(2)	24

（審・門井　杉山）

ジャスコ25〔11－11　11－11　1－2　2－1〕25日立栃木
2 PTC 0

〔戦評〕大変白熱した試合であった。前半の立ち上がりから一進一退の展開。ジャスコが先取、日立が逆転、またジャスコが逆転。前半終了直前に日立が追いつく。

後半は、ジャスコが終始試合の主導権を握り、20分後に近藤のセンターからの連続のミドルシュートで3点差をつけた。一方日立は尾花、中村のロングシューターがそれぞれ5点、4点をあげて必死に粘り、ついに終了30秒前に同点にして延長戦に持ち込んだ。

勢いに乗った日立が延長戦でリード、後半のはじめに2点引き離したが、ジャスコもあきらめずにすぐにサイドシュートで追い、40秒前にキャプテン服部が決めて引き分けた。PTCでジャスコはGKが2本とも止め、勝利をものにした。（竹内泰平）

得	〔ジャ〕		〔日立〕	得
0	吉田	GK	岡本	0
0	小林	GK	梅津	0
2	服部	FP	菅原	1
0	佐々木	FP	神永	6
1	石田	FP	山岸	1
2	近藤	FP	尾苗	9
0	池田美	FP	中村	5
7	渡辺	FP	岡田	1
8	川井	FP	新井	2
0	池田久	FP	吉鶴	0
1	稲田	FP	飯塚	0
4	王	FP	堤	0
25	(6)	PT	(1)	25

（審・清水　太田）

大和銀行22〔10－11　12－9〕20立石電機山鹿

〔戦評〕双方とも積極的な前へつめる固いディフェンスとGKの堅実なキーピング見応えのある攻防となった。大和は丸田、立石は野嶋、橋本を軸に得点を重ねたが、常に大和銀行がリードを保ち、前半を12－9と3点差で終了。

後半の立ち上がり、立石が3点連取して同点に追いついた。その後一進一退が続いたが、後半15分から大和がサイド、ロング、ロングと3点を連取し、19－16と再び3点差をつけ立石が粘りをみせて1点差まで追い上げたが、及ばなかった。（加藤照信）

得	〔大和〕		〔立石〕	得
0	増見	GK	岡本	0
0	坂口	GK	竹下	0
10	丸田	FP	山口	0
3	鈴木	FP	山内	0
3	赤瀬	FP	江口	2
2	上村	FP	田中	0
1	小池	FP	横田	1
2	藤本	FP	野嶋	7
1	渡辺	FP	橋本	6
0	巽川	FP	武津	1
0	松田	FP	中山	0
0	古高	FP	比嘉	3
22	(3)	PT	(2)	20

（審・岩本　板倉）

シャトレーゼ25〔13－12　12－6〕18ブラザー工業

〔戦評〕後半、固さの見えた両チーム、ロースコアの展開となったが、リードしたのはシャトレーゼ。ブラザーのミスに乗じた速攻とベテラン李を中心とした多彩な攻めで着々と得点を重ねた。

後半に入ると、ブラザーの荒木のステップシュートで反撃し、一進一退の攻防となるが、前半のリードに守られてシャトレーゼが勝利した。（久世雅人）

得	〔シャト〕		〔ブ工〕	得
0	丸山	GK	大藪	0
0	高原	GK	岡本	0
5	嶋崎	FP	荒木	8
7	海道	FP	末永	1
3	松沢	FP	原田	1
4	黒沼	FP	板倉	1
1	小林	FP	道上	2
0	小野寺	FP	松尾	0
0	江原	FP	久保田	1
1	生方	FP	大久保	1
4	李	FP	野田	3
0	井出	FP	甲斐	0
25	(6)	PT	(2)	18

（審・渡辺　楓）

敗者復活戦

日本ビクター34〔15－4　19－5〕9ソニー国分

〔戦評〕前半序盤、ソニー国分のミスに乗じ、日本ビクターが武藤のボール回しから根本、下條、山之内らロング、ミドル、固いディフェンスからの速攻を次々とくり出し、次第にリードを広げていった。ソニーもよく足を使って攻めていくのだが、シュートミスが多く、またオーバーステップ、パス、キャッチミスなどもあり、ロング、ポストが散発的に決まるだけであった。

後半に入っても、ビクターは足を使った多彩な攻撃を展開し、一方的な試合となってしまった。（鈴木敦雄）

得	〔日ビ〕		〔ソニー〕	得
0	小口	GK	阿多石	0
0	高橋	GK	山元	0
5	武藤	FP	斜木	0
7	長田	FP	宮原	2
1	枝川	FP	白石	0
3	下條	FP	東郷	1
0	平松	FP	山口	0
5	根本	FP	藤元	4
2	太田	FP	楠本	0
2	永岡	FP	当房	0
4	中村	FP	永尾	2
5	山之内	FP		
34	(5)	PT	(3)	9

（審・渡辺　楓）

北国銀行28〔16－9　12－5〕14ムネカタ

〔戦評〕前半立ち上がりから北国銀行のペースで試合は進行し、ムネカタのミスにつけこみ速攻などで着実に得点。一方ムネカタは攻めがやや単調になり、なかなか得点ができず12－5で前半終了。

後半になっても北国のスピードは落ちず一方的な試合となった。しかし、ムネカタの林、松田のファイトあふれるプレーには好感が持てた。また、北国は大差をつけながら余裕なく、ミスをくり返しているのは気にかかる。（澤保司）

得	〔北国〕		〔ムネ〕	得
0	木戸	GK	遠藤	0
0	岩井	GK	我妻	0
5	上田	FP	伊藤	0
4	林	FP	佐藤	5
3	松田	FP	川名	1
3	北川真	FP	太田	4
3	川崎	FP	桜井	1
2	塙	FP	高橋	0
1	北川静	FP	上遠野	0
4	金	FP	仲野	0
3	森	FP	菅野	1
0	鈴木	FP	佐々木	2
28	(2)	PT	(0)	14

（審・門井　杉山）

立石電機山鹿24〔12－8　12－6〕14JUKI

〔戦評〕前半、立石は野嶋が連続2点先取したが、JUKIもすぐに返撃し同点とした。その後立石は確実に守り、相手の攻撃を封じ攻めては速攻で得点を重ねた。18分後、山内がポストシュートを2本、横田がドリブルシュートと3点連取し、5点差をつけて試合の主導権を握った。

後半の立ち上がり、JUKIは反撃に出たが4点差まで追い上げたのにとどまった。立石は8分後

再び3点連取して突き放し、勝負を決めた。調子に乗る立石は、一人ひとりがのびのびとプレーを続け快勝した。（竹内泰平）

得	〔立石〕		〔JUKI〕	得
0	岡本	GK	大角	0
0	竹下			
1	山口	FP	石塚	0
2	山内		佐藤	4
0	江口		上田	0
1	田中		嶋田	4
1	横田	（審・清水、太田）	内山	0
5	野嶋		樋口	0
6	橋本		伊原	1
3	武津		古谷	1
1	中山		大林	1
4	比嘉		熊谷	3
24	(4)	PT	(1)	14

日立栃木 26（14−7, 12−6）13 ブラザー工業

〔戦評〕前半開始、日立のサイド、カットインに対してブラザーも荒木のステップなどで対抗し、一進一退の攻防を続けていたが、前半10分過ぎから日立は新井のカットイン、神永のサイドなど多彩な攻撃をくり出し、リードを広げ、前半を14−7とリードをして終った。

得	〔日立〕		〔ブ工〕	得
0	岡本	GK	大籔	0
0	梅津		岡本	0
2	菅原	FP	荒木	4
4	神永		末永	0
1	山岸		原田	1
3	尾苗		板倉	4
4	中村	（審・板倉、岩本）	道上	2
5	岡田		松尾	0
6	新井		久保田	0
0	吉鶴		大久保	1
1	飯塚		野田	1
0	堤		甲斐	0
26	(3)	PT	(4)	13

後半に入り、流れの悪いブラザーに対して日立は新井の速攻、カットインなどで5点連取し、15分過ぎには22−7として大勢を決した。その後、ブラザーも速攻などで追い上げたが及ばなかった。（鈴木敦雄）

準決勝

大崎電気 37（19−12, 18−12）24 ジャスコ

〔戦評〕前半、大崎のうまいパス回しによりジャスコのディフェンスを広げ、金のロング、江口のサイドなどで12分までに5点差をつける。一方ジャスコは、13分の速攻をきっかけにペースをつかみ、速攻がよく決まり出したが、セットカの勝る大崎は着実に得点し19−12で前半を終了。

後半になっても大崎の勢いは衰えることなく速攻、サイドシュートなどにより得点をあげていった。ジャスコは、シュートミス、キーパーの好守などによりなかなか得点をあげることができず、大量得点差となった。（澤保司）

得	〔大崎〕		〔ジャ〕	得
0	佐々木	GK	吉田	0
0	宗片		小林	0
3	森田	FP	服部	0
3	松尾		佐々木	3
0	須永		石田	0
4	前川		近藤	5
5	梅原	（審・渡辺、楓）	池田美	0
5	江口		渡辺	0
0	野田		川井	3
1	鈴木		池田久	9
10	金		稲田	0
6	尹		王	4
37	(4)	PT	(8)	24

大和銀行 26（14−8, 8−14, 3−2, 1−2, 2PTC1）26 シャトレーゼ

〔戦評〕前半リードを奪ったのは大和。足がよく動き、速攻で次々と得点を重ねた。シャトレーゼは攻撃がうまくかみ合わず元気がなかった。しかし後半に入ると、シャトレーゼの海道がロングシュートを次々と決め、終了間際に同点に追いついた。

延長に入っても海道の左腕がうなり、一進一退の攻防が続くが、ここでも結着がつかずPTCにもつれこんだ。結局、前・後半ともにコンスタントに得点した大和の丸田の踏んばりでシャトレーゼを振り切った。（久世雅人）

得	〔大和〕		〔シャト〕	得
0	増見	GK	丸山	0
0	坂口		工藤	0
11	丸田	FP	嶋崎	1
2	鈴木		海道	13
7	赤瀬		松沢	4
3	上村		黒沼	0
0	小池	（審・清水、太田）	小林	0
2	藤本		小野寺	1
0	渡辺		江原	0
0	襃川		生方	2
0	瀬川		山岸	0
1	松田		李	5
26	(1)	PT	(4)	26

11・12位決定戦

ソニー国分 23（13−7, 10−14）21 ムネカタ

〔戦評〕前半、ソニー国分が藤元を中心にロングシュート、ポストを使ったプレーなどでじわじわと得点を引き離していった。

後半、ムネカタの太田がロングシュートをたて続けに決め、猛反撃を見せた。残り5分には2点差まで追い上げたが、惜しくも及ばなかった。（青木英樹）

得	〔ソニー〕		〔ムネ〕	得
0	阿多石	GK	遠藤	0
0	山元		我妻	0
0	斜木	FP	伊藤	0
3	宮原		佐藤	4
0	白石		川名	0
1	東郷		太田	10
4	山口	（審・門井、杉山）	桜井	1
7	藤元		高橋	0
0	楠木		上遠野	3
4	当房		仲野	0
4	永尾		菅野	0
			佐々木	3
23	(2)	PT	(0)	21

9・10位決定戦

日本ビクター 28（14−11, 14−8）19 北国銀行

〔戦評〕前半、立ち上がり両チームが点の取り合いとなったが、北国はセンターから林がスカイプレーを見事に決めた。一方ビクターは、相手に連続得点を許さず取られたら必ず取り返すという集中力を発揮、8分後に3点を連取すると、この点差をつけたまま前半を14−11で終了。

後半、ビクターは高い守りで相手のロングシュートをカットし、攻めては速攻とたくみなパスワークからのポストプレーで得点を重ねた。北国は10分過ぎまで3点差のまま必死に粘ったが、その後4連続得点を許して突き放された。（竹内泰平）

得	〔日ビ〕		〔北国〕	得
0	小口	GK	木戸	0
0	高橋		岩井	0
2	武藤	FP	上田	0
10	長田		林	5
0	枝川		松田	3
1	下條		北川真	5
3	平松	（審・清水、太田）	川崎	0
7	根本		塙	0
2	太田		北川静	4
1	永岡		金	1
1	中村		森	1
1	山之内		鈴木	0
28	(5)	PT	(3)	19

7・8位決定戦

JUKI 25（13−10, 12−8）18 ブラザー工業

〔戦評〕前半開始早々、JUKIは古谷、大林を中心としたスピードあふれる攻撃で着々と得点を重ねたのに対して、ブラザーはJUKIの早いつめで荒木のステップなどを阻止され苦しい展開となったが、そほの後野田のサイドなどで盛り返す。しかし、20分過ぎからJUKIが速攻などで次第にリ

ードを奪い、13―10で前半を終了。
後半に入っても、JUKIがスピードに乗った攻撃を展開するのに対し、ブラザーはシュートミス、またはJUKIのキーパーの好捕もあって得点をあげられず、20分過ぎには勝敗を決定的なものとされてしまった。（鈴木敦雄）

得	〔ブ工〕		〔JUKI〕	得
0	大薮	GK	大角	0
0	岡本	GK	石塚	0
4	荒木	FP	佐藤	5
1	末永	FP	上田	0
3	原田	FP	嶋田	2
3	板倉	FP	内山	0
4	道上	FP	伊原	3
0	松尾	FP	柴崎	0
0	久保田	FP	古谷	8
3	野田	FP	大林	4
0	進藤	FP	熊谷	3
0	甲斐	FP		
18	(4)	PT	(0)	25

（審・岩本 板倉）

5・6位決定戦

立石電気山鹿 22 （9―12 13―6） 18 日立栃木

〔戦評〕立ち上がり立石にやや固さが見られ、日立が3点をリードする。その後、日立・尾苗のロング、岡田のポストプレー、立石は野嶋のロングを中心に一進一退の熱戦を展開、前半を3点差のまま終了。後半に入ると、立石のディフェンスが勝り、GK岡本がたて続けにシュートを止め、速攻も決まり出して試合を逆転、粘る日立を振り切って勝利をものにした。（伊藤和宏）

得	〔日立〕		〔立石〕	得
0	岡本	GK	岡本	0
0	梅津	GK	竹下	0
0	菅原	FP	山口	1
2	神永	FP	山内	2
0	柳田	FP	江口	3
3	山岸	FP	田中	2
3	尾苗	FP	横田	0
3	中村	FP	野嶋	9
5	岡田	FP	橋本	3
2	新井	FP	武津	0
0	吉鶴	FP	中山	1
0	飯塚	FP	比嘉	1
18	(1)	PT	(1)	22

（審・門井 杉山）

3・4位決定戦

シャトレーゼ 22 （8―11 14―6） 17 ジャスコ

〔戦評〕ジャスコのスローオフで始まった3位決定戦、序盤戦はジャスコ・王、シャトレーゼ・海道を中心にゲームが展開した。しかし、前半20分過ぎからジャスコはシャトレーゼの単調な攻撃とミスに乗じて速攻で得点を重ね、3点差で前半を終了した。ところが、後半に入ると流れはシャトレーゼへ。海道がシュートを次々と決め、波に乗ってしまった。勢いは最後まで衰えず、結局シャトレーゼが22―17でジャスコを下した。（久世雅人）

得	〔ジャ〕		〔シャト〕	得
0	吉田	GK	丸山	0
0	小林	GK	高原	0
0	服部	FP	星野	0
2	佐々木	FP	嶋崎	2
0	石田	FP	海道	11
0	近藤	FP	松沢	5
0	池田	FP	黒沼	0
5	渡辺	FP	小林	1
5	川井	FP	小野寺	1
0	武田	FP	江原	0
0	稲田	FP	生方	2
5	王	FP	山岸	0
17	(1)	PT	(3)	22

（審・太田 清水）

決勝

大崎電気 37 （22―12 15―15） 27 大和銀行

〔戦評〕大和のスローオフでゲームが始まり、大和・丸田が45度からシュートを放つが大崎の梅原、尹の壁につかまる。丸田のシュートを中心の組み立てを図る大和はリズムに乗れず、単発の攻撃は成攻するものの金を中心とした大崎の流れに対抗できず、前半で10点差をつけられる。
後半、大和・丸田のロングが決まりだすが、大崎の守りを崩すまでには至らず、点差を縮めることができない。大崎は金と尹を交代で出場させる余裕を見せる。
金のパステクニックが目立ち、大崎の守備の堅さが感じられたゲームであった。（日比登史男）

得	〔大和〕		〔大崎〕	得
0	高浜	GK	佐々木	0
0	増見	GK	宗片	0
13	丸田	FP	森田	1
2	鈴木	FP	松尾	1
3	赤瀬	FP	須永	0
1	上村	FP	前川	1
1	小池	FP	梅原	4
0	藤本	FP	江口	7
7	渡辺	FP	野口	1
0	巽川	FP	鈴木	1
0	木瀬	FP	金	8
0	松田	FP	尹	13
27	(2)	PT	(4)	37

（審・板倉 岩本）

〔個人賞〕

▽優秀監督賞
佐藤章治（大崎電気）

▽新人賞
比嘉晴美（立石電機山鹿）

▽ベスト7
GK 増見美果（大和銀行）
FP 金 玉花（大崎電気）
尹 秉順（大崎電気）
丸田紀子（大和銀行）
王 凱萍（ジャスコ）
海道元子（シャトレーゼ）
松尾輝子（大崎電気）



茨城大学教育学部紀要（教育科学）37号（1988）103－107より

ハンドボールのゴールキーパーにおけるシュートの顔面直撃による損傷の実態調査

清水　宣雄*・小宮山政敏*・岡本　研二**・大西　武三***

（1987年9月12日受理）

The Report of
Facial Injury of Goalkeepers in Handball

Norio SHIMIZU*, Masatoshi KOMIYAMA*, Kenji OKAMOTO** and Takezoh OHNISHI***

(Received September 12, 1987)

<はじめに>

ハンドボール競技のスピード化，高度化に伴い，シュートの成功率を向上させるために，ゴールキーパーの弱点である顔面付近を狙うシュートが頻繁に行われるようになった。その結果，シュートされたボールがゴールキーパーの顔面を直撃するケースが増加し，それに伴い，ゴールキーパーが損傷を被るケースも増加していると思われる。また，眼球損傷などによって，ゴールキーパーの選手生命が脅かされる事態も発生している。しかし，現行のルールにおいて，このケースを防止するのは非常に困難なことであり，また，損傷を防止するための有効な防具もまた開発されてはいない。

そこで，本研究においては，ハンドボール競技のゴールキーパーのおける，シュートの顔面直撃による損傷の実態を調査し，ルール改正及び，防具開発のための基礎的資料とするものである。

<方　法>

全国の中学，高校，大学，実業団，713チームの責任者に対して，郵送によるアンケート調査を実施した。アンケートの内容は表2に示したように，シュートの顔面直撃によって，医師の診察を必要とする損傷を被ったゴールキーパーを知っているかどうかを質問し，知っている場合には，損傷を与えたシュートの状況，損傷の部位・程度などについて尋ねた。さらに，損傷を被ったゴールキーパーを知っているかどうかに関わらず，回答者全員にこの問題に対する意見を求めた。

また，世界における傾向を調査するために，

表1．英文アンケート

The questionnaire about goalkeeper'sinjury
by a ball striking against their face.

Your Country
Your Post of Handball Fedaration
Your Name

Please answer the questions.

1) How many teams do you have in your country?
about

2) In your country, have you ever had any goalkeepers injured by a ball striking against their face?
a) yes　　b) no (If your answer is "no", please pass to that last question.)

3) How many injured goalkeepers do you have in a year?
about

4) Which part of face was injured in that case? (Please mark without limit.)
a) head　b) eye　c) nose　d) cheek
e) moouth　f) ear　g) chin　h) neck
i) others　(　　　)

5) Especially, do you have any goalkeeper whose eye was damaged in that case?
a) nobody　b) How many?　about

6) In your country, what do you think about this problem?

Thank you for your cooperation.

85カ国のハンドボール協会に対して，郵送による英文のアンケートを実施した。アンケートの内容は表1に示した。

＜結果と考察＞

国内においては，429チームの責任者からアンケートが回収され，（回収率60.2％）103件の損傷について，データを得ることができた。

また，国外からは，25カ国から英文アンケートが回収された。（回収率29.4％）

その結果，次のことが明らかになった。

図1に示したように，回答者の44.3％がマスクの必要性を述べており，ルールでの規制を望

表2．和文アンケート

ハンドボールにおけるシュートの顔面直撃によるゴールキーパーの損傷の実態調査アンケート

所　属＿＿＿＿＿　お名前＿＿＿＿＿

A）7人制ハンドボールにおいて，シュートの顔面直撃によって，医師の診察を必要とする損傷を受けたゴールキーパーをご存じですか。

a）知っている　　b）知らない

（b）とお答えの方は，以下の問いにはMにだけお答え下さい。）

B）損傷をうけた，そのゴールキーパーは誰ですか。

a）ご自身　　b）指導された選手　　c）チームメイト　　d）相手チームのゴールキーパー
e）その他（　　　　）

そのゴールキーパーをご紹介下さい。

氏　名＿＿＿＿　連絡先名＿＿＿＿　Tel＿＿＿＿

C）そのゴールキーパーの性別？　　a）男　子　　b)女　子

D）そのゴールキーパーが損傷を受けたのは何年頃ですか。　　昭和＿＿年＿＿月　頃

E）そのゴールキーパーが損傷を受けたときの所属？

a）スポーツ少年団　　b）中学　　c）高校　　d）大学　　e）クラブチーム　　f）実業団
g）日本リーグ　　h）全日本

F）損傷を受けたのはいつですか。　　a）練習中　　b）練習試合　　c）公式試合

G）大会のレベルは？（F）でc)と答えた方のみお答え下さい。）

a）地区大会　　b）都道府県大会　　c）ブロック大会　　d）全国大会　　e）日本リーグ
f）親善試合　　g）国際大会

H）どんなシュートで損傷を受けましたか。

a）サイド　　b）ポスト　　c）ペナルティー　　d）速攻　　f）カットイン　　g）ロング・ミドル　　h）その他

I）どの様な損傷を受けましたか。

a）頭　部

1）軟部組織の損傷（出血）　　2）頭蓋骨折　　3）頭蓋内血腫（意識消失）　　4）脳震盪（意識消失）　　5）脳挫傷（意識消失）　　6）その他（　　　　）

b）顔面部

1）軟部組織の損傷（出血）　　2）鼻骨骨折　　3）頬骨骨折　　4）その他（　　　　）

c）眼　部

1）眼球破裂　　2）網膜剝離　　3）視神経管骨折　　4）網膜出血　　5）結膜下出血
6）眼瞼裂傷　　7）外傷性白内障　　8）眼窩底骨折　　9）角膜白斑　　10）その他

d）耳　部

1）鼓膜損傷　　2）耳介損傷　　3）その他（　　　　）

e）口腔部

1）歯牙損傷　　2）舌損傷　　3）上顎骨骨折　　4）下顎骨骨折　　5）その他

f）頸　部

1）むち打ち症　　2）その他（　　　　）

h）その他（　　　　）

J）損傷の程度はどうでしたか。

a）医師の診察だけ　　b）治療を受けた　　c）通院した　　d）入院した

K）手術を必要としましたか。

a）必要とした　　b）必要としなかった

L）復帰に要した時間？

a）（＿＿年＿＿ケ月＿＿週）間で復帰した　　b）復帰できなかった

M）ゴールキーパーの顔面の狙ったシュートの顔面直撃に関して，ご意見をお聞かせ下さい。

む意見も34.9％あった。一方，競技の特性上，仕方がないとする意見が14.7％あったが，アンフェアな行為として，顔面付近はシュートをさせない指導をすべきとする意見も13.2％あり，意見が分かれている。しかし，この問題を重大なものと考えている意見が大勢を占めた。

図２から，損傷を与えたシュートは，サイド（44.2％）速攻（29.2％），ポスト（16.8％）からのものが多く，動きながらの至近距離からのシュートであることが判る。同じく至近距離からのペナルティーシュートにおいて損傷を与えたケースが4.4％と少ないのは，ペナルティーシュートが静止状態から打たれるためであると考えられる。

損傷の部位に注目すると，図３から明らかなように，眼部における損傷が非常に多いことが判る。

一方，世界の傾向に注目すると，表３から判るように，ハンドボールが最も盛んな，ヨーロッパ地域の国においては，眼部の損傷が少なく，頭部・顔面部（鼻部）の損傷が多い。

これは，日本人（非白人）の眼窩部の特性（眼球突出）によるものと考えられる。

何故ならば，筆者らの研究[1]によると，図５に示した眼窩部の計測箇所の模式図におけるDC・DE の数値に，表４から明らかなように，日本人と白人において，有意な差が見られたからである。

日本人は眼球が突出しているために，眼部での損傷が多く，白人は，前頭部・鼻部が張り出しているために，頭部・顔面部での損傷が多いと考えられる。

さらに，図４から眼部の損傷の中でも，網膜におけるものが最も多く，かなり強い力が加わったと考えられる。

以上のことから，シュートの顔面直撃による損傷を防ぐためには，審判の主観による判断に頼らざるを得ないルールを制定するよりも，眼部と顔面部（鼻部）を保護するマスクを開発することが望ましいと考えられる。

注

1）小宮山政敏・清水宣雄，「生体計測手法によって求めた白人と日本人における眼窩部外観の違い」，『国際武道大学紀要』，第１巻，1985年，pp.27－30

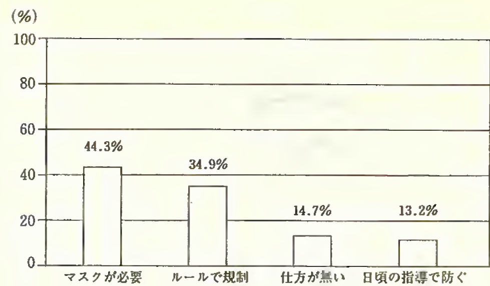


図１　シュートの顔面直撃に対する意見

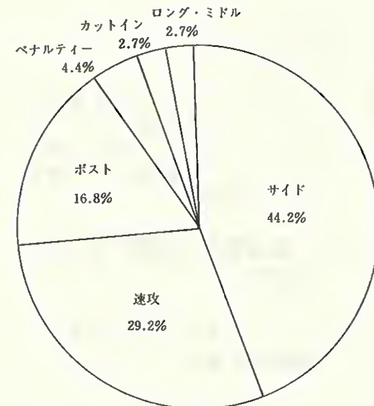


図２　損傷を与えたシュート

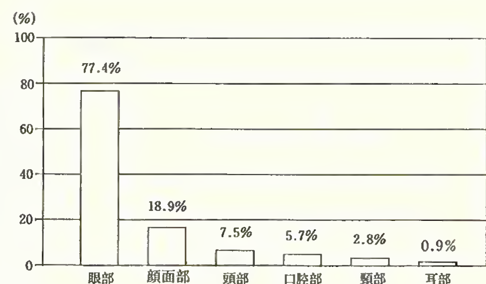


図３　損傷の部位

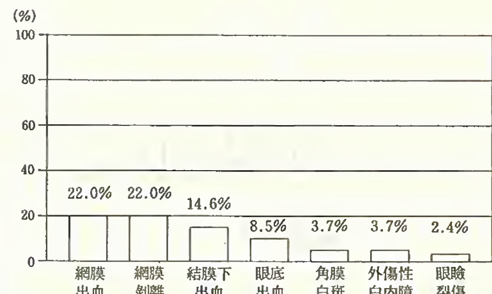
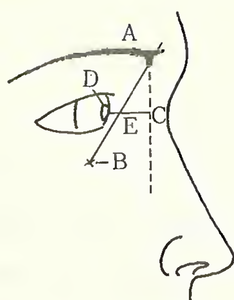


図４　眼部損傷の種類



A　眼窩上縁の点
B　眼窩下縁の点
D　角膜項
BC　眼窩上縁の点 (A) を通る垂線と角膜項 (D) との距離
BE　眼窩上縁の点 (A) と眼窩下縁の点 (B) を結ぶ直線ABと角膜項 (D) との距離

図5　眼窩部の計測箇所を示す模式図

表4　白人と日本人における眼窩部の違い

	DCの平均±(S.D.)	DEの平均±(S.D.)
白　人	10.51 ± (2.72)	4.83 ± (2.35)
日本人	5.83 ± (3.33)	0.88 ± (1.66)

1%水準で有意差あり

表3　アンケートによる各国のチーム数とシュートの顔面直撃による損傷部位

国　名	チーム数	傷害部位							
		eye	head	nose	cheek	mouth	ear	chin	neck
Austria	700	○	○						
B. R. D.	34000		○						
Bahrain	38	○		○		○			
Belgium	500	○	○	○		○			
Canada	500			○					
China	720	○	○	○		○			
Cyprus	15								
Ethiopia	25	○							
Finland	160								
Hong Kong	30	○			○				
Hungary	2500			○					
Iceland	230		○						
Iraq	80								
Italy	600								
Jugoslavia	1800		○	○					
Luxenbour	18								
Mexico	60								
Norway	5500		○						
Poland	405								
Spain	2320			○					
Sweden	2000								
Switzeland	2200								
Tanzania	40	○		○					
Turkey	460					○		○	
U. S. S. R	220		○	○					

この研究は，昭和61年度科学研究費補助金によって行われた。(清水宣雄「ハンドボールのゴールキーパーにおけるシュートの顔面直撃による損傷の実態調査」課題番号61780163)

＊国際武道大学体育学部体育学科
＊＊茨城大学教育学部体育科
＊＊＊筑波大学体育科学系

大阪高校選抜　西独遠征報告

3月20日から4月4日までの16日間、大阪高校選抜チームが4回目の西独遠征を行なってきました。ここにその報告を掲載いたします。

〔親善試合結果〕

〈男子〉

試合	日付	チーム	得点	前後半（上段／下段）	得点	チーム
○第1戦	（3月22日）	スタインバッハ	34	18 16 / 15 13	28	大阪
○第2戦	（3月23日）	大阪	20	8 12 / 8 11	19	ミルハイム選抜
○第3戦		大阪	27	19 8 / 12 12	24	HSGブェルム
○第4戦	（3月26日）	大阪	25	13 12 / 14 10	24	オーバーファルツ
○第5戦	（3月28日）	GWDミンデン・ダンカーゼン	40	22 18 / 18 13	31	大阪
○第6戦	（3月29日）	大阪	41	21 20 / 8 11	19	TVペータースハーゲン
○第7戦	（3月30日）	大阪	31	15 16 / 12 12	24	TUSジュートヘマーレ
○第8戦	（4月2日）	大阪	30	16 14 / 14 11	25	エッセン

◇通算6勝2敗

試合	日付	チーム	得点	前後半（上段／下段）	得点	チーム
○練習試合		グルメルスバッハジュニア	39	28 11 / 15 4	19	大阪

〈女子〉

試合	日付	チーム	得点	前後半（上段／下段）	得点	チーム
○第1戦	（3月22日）	スタインバッハ	26	11 15 / 5 3	8	大阪
○第2戦	（3月23日）	ミルハイム選抜	13	7 6 / 6 4	10	大阪
○第3戦	（3月25日）	ヒュードルリーネンギムナジウム	21	13 8 / 7 7	14	大阪
○第4戦	（3月26日）	オーバーファルツ	17	10 7 / 7 7	14	大阪
○第5戦	（3月28日）	大阪	23	11 12 / 10 9	19	TVシュテマー
○第6戦	（3月29日）	大阪	20	14 6 / 11 9	20	TVペータースハーゲン
○第7戦	（3月30日）	大阪	21	6 15 / 8 7	15	TUSジュートヘーマン
○第8戦	（3月31日）	大阪	30	11 19 / 8 8	16	ASCローペ・ベルクノイシュタット混成

◇通算3勝4敗1分

〈遠征チームの反省〉

〔男子〕

○初戦に負けたのが惜しかった。

○遠征の前半に、盛り上がりに欠ける所があり、試合中に無駄があったように思う。

○相手のミスを、チャンスにできなかった。

○勝率では勝ち越しているが、一つ一つのプレーを考えると、まだまだ力不足。

○結果は悪くなかったが、いろいろな面においての切り替えをもっとスムーズにするべきであったと思う。観光と試合の両方にもっと力をいれたらよかった。

○良い時と悪い時の波が激しく、調子に差がありすぎた。

○前半はミスが多く、せっている時だったので負ける結果になった。

○相手のチームと違って、ミスが目立っていた。もう少し大事にしていれば、楽な試合が増えたと思う。

○みんなが乗ると強いチームだが、沈んでしまうと大変弱かったと思う。

○いろいろなチームと戦っている間に、個人的にもチームもレベルが上がった。

○ゲームは9試合のうち、中盤の頃は全く集中力に欠けていて、ボールへの恐怖心があったが、最後の方では、ボールについていけるようになった。生活面では、ドイツの同年代の人たちと、仲良く友達になることができた。

○試合の方ではいろいろ怒られたけれど、みんな試合は頑張った。生活面ではけっこうよかったと思う。

〔女子〕

○3勝4敗1分けという悪い成績に終わりとても残念だ。観光の時なども行動が遅く、先生方にも迷惑をかけた。

○初めのゲームではみんなバラバラだったような気がする。移動もダラダラしていて、怒られることがたびたびあった。

○チグハグなプレーが続くと、とことんチグハグになり困った。

○気持ちの面であわないところを持ったまま試合を続け、結果的に良い成績をあげられないまま終わってしまった。早く話し合いをしてみるべきだった。

○まとまりに欠けていたように思う。話し合ってからは少しましになった。

○日本での練習ゲームではもっとコンビプレーもできていたのに、ドイツでは全くできなかった。ディフェンス面も同様、ポストをみるものと45度をみるものとの連絡がとれず、ぬかれるパターンが多かった。

○パスミス・キャッチミスが多かった。それさえなければ勝てる試合もあった。

○始めの方はミスが多かった。自分もとても緊張していた。勝てる試合をミスで落としたのは悔いが残る。

○もっと元気を出し、自分たちの力を出し合って1戦から勝ちたかった。

○前半はミスも多く全然だめだったが、後半は自分のもっているものをだせたと思う。

〈ドイツチームの印象〉

〔男子〕

○とにかく大きかった。2倍近くもある選手が自分と同じ年と知って驚いた。

○ドイツチームは強いチームと弱いチームの差があった。遠征後半にやったグルメルスバッハなどはとても強かったし、キーパーもうまかった。背が高くて大きいので、ポストで前に立たれると、フローターの動きやボールが見えなかったのが印象的である。

○2戦目の相手が4部の1位のチームで、特にパス回しが速かった。背が高いし、速攻が速かった。

○からだつきの違いに驚いた。シュートの球は速いし、ボール移動もきちんとできていた。

○予想どおり大きくて力のある選手が多かった。でもけっこう雑なプレーをするチームもあったように思う。また、レセプションの時に南の方のチームはおもしろい人がいたけれど、北にいくほど付き合いにくい人が多いように思った。
○南ドイツの方はクラブ的な要素が強くて和気あいあいとやっていたと思う。北にいくほど実力的な要素が強くて、素晴らしいチームだった。背の高さや体力面では驚いた。
○背が高くてパワーがすごい。フェイントは少なくて、ポストプレーが多い。速攻がない（ゆっくり攻めてくる）。シュートに対する執着心がすごい。
○ウォーミングアップ方法が違った。
○力が全然違う。シュートのほとんどを身体ごと倒れ込んで決める点が違った。
○日本チームとは体格も違うし、シュートの威力も違う。今回は、相手がシュートをゴール枠からはずしていたからよかったが、はいっていれば負け試合も多かったはずである。
○パワフルで高さがあり、個人にシュート力があった。引きつけてからのパスも、どこからでもシュートをねらえる力があってこそだと思う。
○最初の方はあまり強いとは感じられなかったが、グルメルスバッハやエッセンなどのチームは、楽しいハンドボールとスピードがみれた。
○背が高いのにロングにばかりに頼らず、積極的にポストを使ってきた。
○背の高さと体重がすごく、そのうえ動きもよかった。204cmには驚いた。

〔女子〕
○とにかく大きい。パス・キャッチがきちんとしている。パワーがある。
○速攻は少なかったし動きも特に速いわけではないが、パワーがある。
○自分たちより背が高いせいか、迫力があった。
○一番ポイントと思ったのは、ポストシュートだと思う。粘り強い。
○男か女かわからないぐらい大きいなと思った。もう少しレセプションの時、明るくしてくれるかなと思ったのが間違いだった。
○からだの大きい人が多かったのでびっくりした。しかし、パスミス・キャッチミスも相手にみられ、日本が負けたチームでも勝てる試合は沢山あった。
○大きくてこわかった。ボールが速かった。よく動き回る。パスが正確。
○大きいので、当たりにいっても中途半端だと打ってくる。あまり鋭いフェイントなどはなかった。身体をみていると、ロングシュートをどんどんきめてくるように思ったが、想像していたほどではなかった。速攻も多くはなかったと思う。
○基礎がしっかりしていると思った。パワーがあり、シュート力もあった。
○小さい頃からやっているので、パスは正確。シュートも身体の柔らかさと粘りでつかまってでも腕の振りで決まるパワーがある。フットワークがうまい。
○少しにぶい人が多かった。チームに1人か2人しか足の速い人がいなかった。馬力はあるが、おもったより強くなかった。
○腕の振りが速い。つかまれていても中に入ってきて積極的なプレーをする。
○背が高く、腕が長いから得をしていると思う。でも逆速攻や攻撃をしてくるとき、遅いのでこちらも楽だった。

〈日本チームがみならうべき点〉

個人技術…ＧＫ

〔男子〕
○ボールをよくみて、身体も柔らかい。
○足もとが強い。特にグルメルスバッハのＧＫは反応も速くすごいの一言。とにかくシュートのスピードになれ最後までボールにくらいつける努力が必要。
○ボールが手から離れるまで動かない（特にグルメルスバッハ）。シュートを止めた後、素早く速攻か、遅攻かの判断をしていた。
○柔軟性とボールへの読み。位置どりが正確にできること。
○日本チームのＧＫもノーマークシュートをとめていたけれど、西独チームのＧＫはもっと判断が速い。
○下をとめるのに、足がすぐに出ていた。

〔女子〕
○日本のＧＫの方が優れていると思った。
○ボールに対する集中力や、どんな取り方でもいいからボールをとるという、強い意志を持っている。
○身体が柔らかく、フットワークが良い。

個人技術…ＦＰ

〔男子〕
○西独チームは強引なところがある。
○シュート力とパス回し。
○ボールに対するしつこさ（絶対シュートしようとする粘り）。
○防御も1対1を確実に守らねばならない。
○ポストプレーが非常にうまい。ポストプレーからボールをもらったらすぐ、シュート体勢に入っている。
○速攻と遅攻のきりかえのはやさ。

○ポストプレーなど、身体を完全にキーパーからはずしてシュートしている。身体を捨ててシュートを決める。
○どこからでもシュートをねらう「どんよくさ」と、走り込んで打ちおろす強烈なシュート。防御は痛いほどの激しいロングのチェック方法。
○自チームのボールになると、速攻か遅攻かにかかわらず1枚目2枚目と走ってくる。
○2歩ステップからのサイドシュートをするプレヤーがいた。GKは3歩でタイミングをあわせるのでずらされる。
○最後は必ずシュートでおわる。シュートのとき、1回1回腕の出る所が違った。
○少々手をはたかれてもボールを離さない。おもいきったプレーをする。

〔女子〕
○パス・キャッチの正確さ。ルーズボールをとる。ポストでボールをうけると、どんな無理な体勢でも倒れ込んでシュートをねらう。
○つかまれても捨て身でシュートをうってくる。
○身体を入れ変えてのシュートやシュート力。手首の強さ。
○守りに厚みがあり、一人一人が責任をもって守れていた。
○サイドシュートと、ポストシュートがすごかった。
○ポストのしつこさ。
○積極的に上からや、身体を入れてのシュートスピードなど見習うべき。

チームワーク…攻撃面

〔男子〕
○体格が大きい割りに、ポストパスを通して攻める事が多かった。そして、ワン、ツー、リターンなどの攻撃などがあった。
○パスが特に正確で早く、一人一人が視野を広くもって攻撃していたように思う。チームワークでは僕達もまあまあよかったと思うが、みならうべき点といえばやはり、パスやシュートの正確さだろう。
○誰でもがシュートを決める自信をもっている。パス回しが早い。
○パスワークをしっかりして、ポストとフローターとの連携で確実に点をとる。
○ボールに対する執念が日本人とは違った。それにミスが少ない。相手のたるみをつくのも上手であった。
○フローターのシュートが正確だった。ポストプレーヤーがよく動く。
○フローターとポストのからみがとてもうまかった。身長の高いプレーヤーがいると、どうしてもディフェンスが広くなるので、そのすきをついてうまくポストがからんでいた。
○高さと力強さを生かした攻撃をチーム全体がこころがけていた。
○サイドが回り、逆のポストへ移動のとき、フローターがポストへ落として2対1を作るパターンが多かった。一人一人がシュートは絶対決めるという心構えがみえた。
○自分達のディフェンスが前に出ていたので、ドイツの方は、よくポストを使ってきた。

〔女子〕
○キャッチからシュートへの早さとシュートへの強引さ。ボディーチェックされてもつぶされずにパスする点。
○ポストとのからみが多かったので、フローターとポストとの息があっていた。
○ものすごく強引だった。ボール回しが早かった。少しでもつめていないとステップシュートが入った。
○パスミス・キャッチミスが少なくて、パス回しが早いこと。ポストとのコンビが良い。
○チーム全員が笛が鳴るまでシュートを諦めないという気持ちを持っているところを見習いたい。
○積極的にシュートを打つ。
○チームによりまちまちだったが、ディフェンスに身体をとめられていてもパスを出せて、みんながそのパスをとるのがすごいと思った。
○ルーズボールの処理が良かった。

チームワーク…防御面

〔男子〕
○背が高かった。
○1対1が強かった。
○よく声が出ていたし、わりこんでのずらしにも一枚目は止めていた。
○基本に忠実で、ちゃんと腰を落として声を出して動いていた。
○フォローディフェンスが上手だった。
○フローターへボールが回るときのパスカットも見習うべきだと思う。
○弱いチームは1対1が弱いけど、強いチームでは全くぬけず2対1の型がつくれなかった。
○ポストチェックが厳しく驚いた。そのくせしっかりと上にもつめていた。速攻に対するディフェンスの早いのにも驚いた。

〔女子〕
○声が良く出ていた。
○身体が大きいのですぐに止められてしまう。しかし、身長の高い人には前に出てあたればシュートされずにすむ事を学んだ。
○当たられるとふっとんでしまう。あのディフェンスがすごかった。失敗したら、お互いに注意しあっていたのが印象的であった。
○チームによって差はあったけれど、全体的にフットワークが良くて、瞬発力があった。
○上から打ってくるシュートに対しては、確実につめてボールを押さえていた。

'87 女子ジュニア世界選手権大会 アジア地区予選のゲーム分析について

〔日本ハンドボール協会トレーニング・ドクター群〕
阿部徳之助[1]，竹内正雄[2]，栗岩淳一[3]
宮澤恒夫[4]，森川寿人[5]，西山逸成[6]
（協力者）北川勇喜[7]，藤原　侑[7]，松井幸嗣[7]，
上嶋美佐子[7]
日本体育大学ハンドボール部員

① 自治医科大
② 星薬科大
③ 都立日野高校
④ 高井戸中学校
⑤ 九州女子大学
⑥ 防衛大学
⑦ 日本体育大

1．はじめに

昭和62年（1987）女子世界選手権大会のアジア地区予選大会が，日本，中国台北，両チームによって行われた。

第1ラウンドは，5月31日，第2ラウンドは6月2日，の2試合をVTRにおさめ，その中から両チームのゲーム分析をし，日本のジュニアの強化に役立てようと分析を試みた。

2．方　法

①対象　　中国台北，日本
②日時　　1987年5月31日，6月2日
③場所　　東京都　代々木第1体育館
④分析項目
パス回数，攻撃に対する得点率 $\left(\frac{\text{得点}}{\text{攻撃回数}}\right)$
シュート率 $\left(\frac{\text{得点}}{\text{シュート数}}\right)$ ドリブル回数
移動距離（200分の1のハンドボール競技場縮図を用意し，1人の検者が1人の被検者を追跡し，1試合における軌跡を記入した。それをもとに実際の移動距離を算出した）。

3．結　果

（第1戦）

表1，図1はジュニア世界選手権アジア地区予選大会の日本，中国台北の体格，移動距離，パス回数，攻撃における得点率，シュート率を示した。

これらをみると，身長では日本165.8±5.84 cm，中国台北167.6±5.25 cm，体重では日本60.4±3.66 kg，中国台北59.6±4.45 kgで，身長，体重ともに両チームともほぼ同じ値であった。

次に第1戦の1試合の移動距離では，日本2786 m，中国台北2636 mであった。

その内訳をみると，日本が全力疾走での前・後半の距離2528 m，中国台北2341 mで，やや日本の走行距離が多い。

さらに，これを両チームの中で最も長い距離を走った選手は，中国台北・劉素貞（18歳・身長164 cm・体

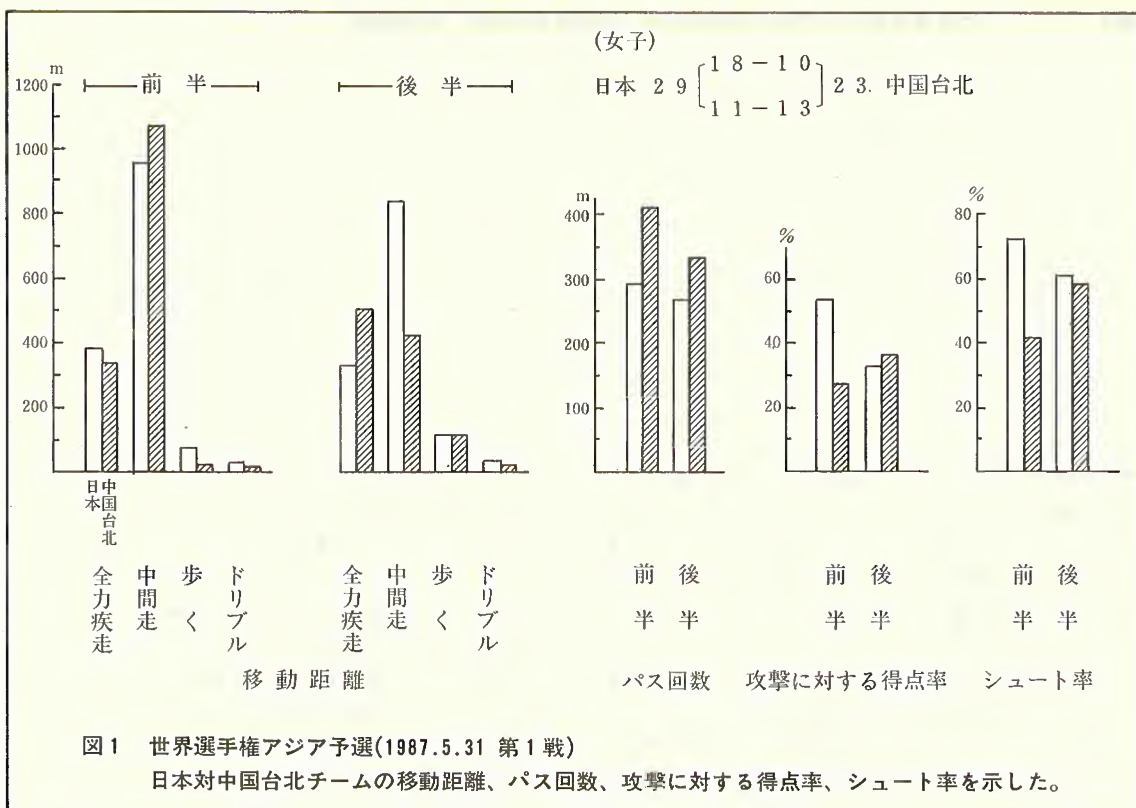


図１　世界選手権アジア予選(1987.5.31 第１戦)
日本対中国台北チームの移動距離、パス回数、攻撃に対する得点率、シュート率を示した。

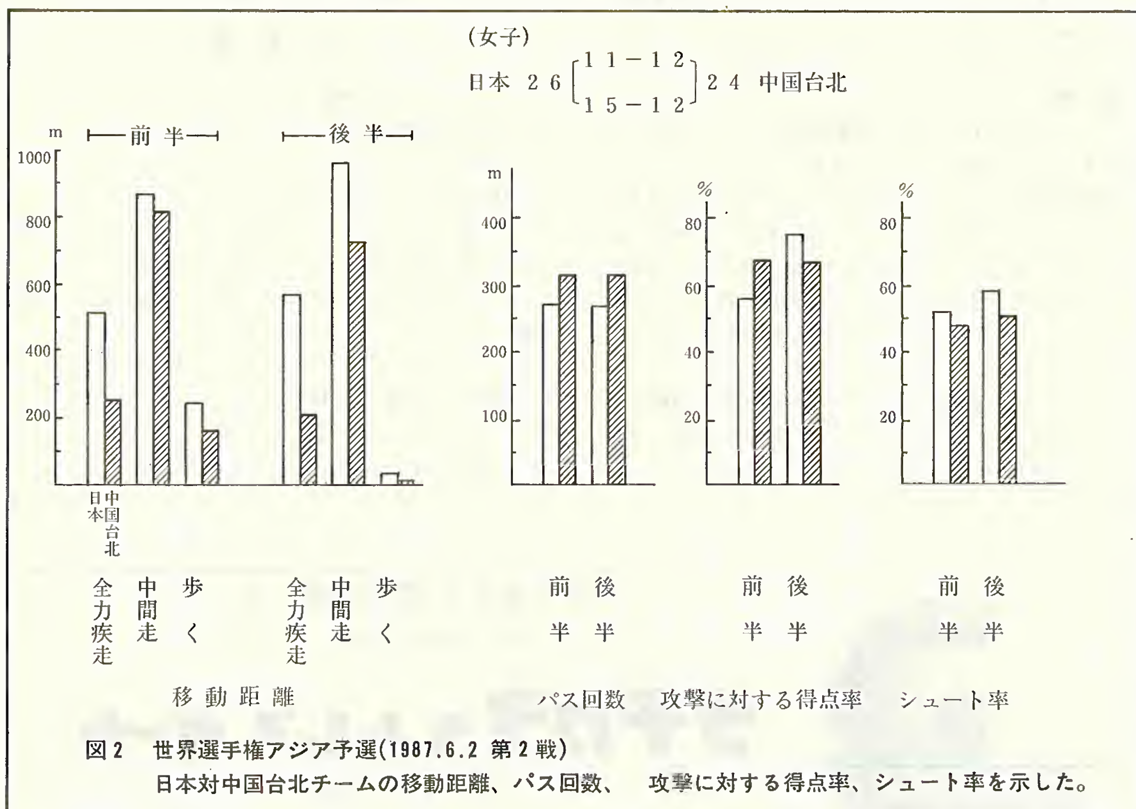


図２　世界選手権アジア予選(1987.6.2 第２戦)
日本対中国台北チームの移動距離、パス回数、攻撃に対する得点率、シュート率を示した。

表1　ジュニア世界選手権アジア地区予選の日本・中国台北の体格，移動距離

		年齢 (才)	身長 (cm)	体重 (kg)	前半				後半				合計
					全力疾走(m)	中間走(m)	歩く(m)	ドリブル(m)	全力疾走(m)	中間走(m)	歩く(m)	ドリブル(m)	
日本	X	18.7	165.8	60.4	394	956	45	25	335	843	111	38	2787
	S・D	0.78	5.84	3.66									
中国台北	X	18.1	167.6	59.6	336	1077	160	20	504	424	110	5	2636
(第1ラウンド 5/31)	S・D	1.29	5.25	4.45									
日本	X	18.7	165.8	60.4	510	856	237	—	579	961	23	—	3166
	S・D	0.79	5.84	3.66									
中国台北	X	18.1	167.6	59.6	250	815	160	13	208	739	186	9	2374
(第2ラウンド 6/2)	S・D	1.29	5.25	4.45									

重58 kg）2445 m，日本・武津優子（20歳・身長172 cm・体重59 kg）5020 m であった。

1試合のパス回数をみると，中国台北747回（前半409回，後半338回），日本565回（前半298回，後半267回）で，182回中国台北が日本よりもパスを多用している。

さらにこれを1回の攻撃に使用されたパスの回数をみると，中国台北10回，日本8回であった。

攻撃における得点率は，中国台北32％（前半27％，後半36％）で，日本43％（前半53％，後半32％）であった。日本が中国台北よりも約11％高い。

これらをさらにシュート率でみると，中国台北51％（前半42％，後半51％），日本67％（前半72％，後半61％）で，日本が中国台北よりも16％高かった。

（第2戦）

図2，中国台北と日本の移動距離，パスの回数，攻撃における得点率，シュート率を示した。

移動距離をみると，日本3166 m，中国台北2374 m であった。その内訳をみると，全力疾走と中間走では，前・後半の日本は，1089 m，中国台北458 m で日本が約50％多く走っている。また，中間走では日本1817 m，中国台北1554 m で，ここでも15％日本が多く走っている。

さらに，これを両チームのなかで最も長い距離を走った選手をみると，中国台北・汝淑芳（16歳・身長155 cm・体重51 kg）3880 m，日本・小林江利子（19歳・身長165 cm・体重62 kg）3005 m であった。

次に1試合でのパスの回数では，日本537回（前半264回，後半273回），中国台北639回（前半320回，後半319回）であった。中国台北のほうが日本よりも102回多かった。

また，1回の攻撃におけるパスの回数の平均は，日本14回，中国台北18回であった。

攻撃における得点率では，日本66.5％（前半57.9％，後半75％），中国台北66.7％（前半66.7％，後半66.7％）でほとんど同じ値であった。

さらにこれを，シュート率からみると，日本55％（前半52.3％，後半57.6％），中国台北51.2％，後半54.5％）で3.8％だけ日本のほうが高かった。

4．考　察

世界ジュニア選手権大会アジア地区予選の第1戦，第2戦の移動距離をみると，日本のほうが中国台北よりも多く走っている。

前回報告した，'87．女子ジャパンカップにおける，日本，韓国，アメリカ，ソ連のチームの1試合に移動した距離の最大値は4062 m，最小値は 2334 m であった。これを今回の両チームの移動した距離は，その範囲内にあった。

また，ジャパンカップ'87の個人が1試合に最も長く移動した距離での国別の順位でみると，No. 1 韓国・奇美淑（20歳・身長165 cm）4320 m，No. 2 日本・前田重子（26歳，身長163 cm・体重59 kg）4270 m，No. 3 ソ連・スベトラナ・ビドリーナ（21歳・身

長183 cm）3212 m，No. 4 アメリカ・キム・クラーク（22歳・身長180 cm）2976 m であった。

しかし，今回のジュニア世界選手権大会の第1戦の日本・武津優子選手（20歳・身長172 cm・体重59 kg）5020 m で，これまでの記録をはるかに上回り，最も長い距離を移動したことになる。このように，ハンドボール競技では，1度交替しないと，3000 m から5000 m をへばることなく走り続けなければならないことになる。このことから，走力を高めるトレーニング，特に呼吸・循環系の強化を積極的に行う必要が望まれる。

さて，1試合のパスの回数をみると，日本よりも中国台北のほうが多く使用されている。

これは，両チームの体格がほとんど同じであり，また，攻撃の型も類似している。しかし，速攻による回数をみると，日本23回（前半7回，後半12回），中国台北13回（前半7回，後半6回）である。これらがパスの回数の差に現われたものと思われる。

次に攻撃に対する得点率をみると，第1戦の前半，中国台北は僅か27％にすぎなかった。つまり約70％はボールを保持してからシュートまでにおいて不成功に終わっていた。

後半では，中国台北のほうがやや得点率がよかったが，後半の得点率の低さが，勝敗を決定づけたものと思われる。

第2戦では，図2に示すごとく，前半は中国台北，後半では日本のほうがよく，前・後半での両チームを比較してみると僅か0.2％日本が得点率でよかった。すなわち，日本が中国台北よりもミスが僅かながら少なかったことになる。

このように，ボールを保持し，シュートまでの試合を展開のなかでのミスの発生を最小限にし，さらに，シュート段階までの過程が重要であることはいまさら述べるまでもない。

前回女子の報告した，女子ジャパンカップでは，世界のトップチームの得点率では，前・後半とも安定した得点率を示しているのに対して，日本が前半よりも後半のほうが低くなる傾向を示している。

これは体格の差によることや，基礎体力，特に全身持久力の不足からくる疲労が影響していることも十分推察される。

ミスの多いチームは，最終的には試合に勝つことができないことを示唆しているといえよう。

日本のジュニアの選手たちは将来，全日本選手として大いに活躍が期待されている。

世界のトップレベルにあるチームと互角に試合展開をしなければならないことから，我国のジュニア選手の養成のあり方を再検討してみる必要があろう。

各地の記録から・・・

東北

宮城県春季選手権

（4月21～24日／仙台市体育館）

〈一般男子〉

▼1回戦
仙台大 53－1 電波高専
宮城教員 39－17 白虹会
東北福祉大 37－14 東北電力
東北大 23－16 宮城教育大
学院工学部 30－18 宮城高専

▼2回戦
東北学院大 25－23 仙台大
東北福祉大 30－21 宮城教員
育英クラブ 27－24 東北大
学院大OB 12－0 学院工学部

▼準決勝
東北学院大 21－16 東北福祉大
学院大OB 31－15 育英クラブ

▼決勝
学院大OB 29（13－13、16－15）28 東北学院大

〈一般女子〉

▼決勝リーグ
東北福祉大 31－9 宮城教育大
東北福祉大 27－14 宮城三女高
聖和高 22－14 宮城教育大
宮城三女高 22－12 宮城教育大
東北福祉大 19－17 聖和高

※聖和高と宮城三女高は高校の部で対戦。
〔順位〕①東北福祉大②聖和高③宮城三女高④宮城教育大

〈高校男子〉

▼1回戦
仙台高山 29－20 古川工
宮城広瀬 24－22 東北
塩釜 26－13 県工
仙台三 29－14 築館
泉松陵 25－8 一迫商

▼2回戦
古川商 31－22 仙台向山
仙台商 26－15 宮城広瀬
仙台西 32－20 佐沼
仙台二 19－17 仙台三
仙台一 24－19 塩釜
古川 30－18 仙台
仙台南 31－22 泉館山
育英 29－16 泉松陵

▼3回戦
古川商 34－8 仙台商
仙台西 24－21 仙台一
古川 22－16 仙台二
育英 34－15 仙台南

▼準決勝
古川商 30－18 仙台西
育英 25－20 古川

▼決勝
古川商 18（9－7、9－10）17 育英

〈高校女子〉

▼1回戦
涌谷 17－11 古川女
古川商 18－5 仙台西
飯野川 22－12 宮城一女
朴沢女 30－4 泉松陵
宮城二女 29－5 築館女
佐沼 18－17 泉館山

▼2回戦
聖和 19－12 涌谷
古川商 19－10 飯野川
朴沢女 17－12 宮城二女
宮城二女 21－6 佐沼

▼準決勝
聖和 26－9 古川商
宮城三女 16－15 朴沢女

▼決勝
聖和 27（17－3、10－9）12 宮城三女

第14回山形県春季選手権

（4月29日～5月1日／東根市民体育館）

〈男子〉

▼1回戦
北村山高 32－13 山形東高
大東ク 23－17 寒河江工高
山形工高A 27－16 新庄工高
日大山形高 31－11 真室川高
山工・日大OB 27－24 寒河江高
山形工高B 25－14 山本学園高
山形大学 41－14 東根工高

▼2回戦
真室川ク 28－16 北村山高
山形工高A 25－12 大東ク
山工・日大OB 23－21 日大山形高

▼準決勝
山形大学 37－6 山形工高B
真室川ク 23－14 山形工高A
山形大学 25－23 山工・日大OB

▼決勝
山形大学 25（13－10、12－9）19 真室川ク

〈女子〉
山形教員 30－10 山本学園高
米沢女高 13－11 桜華ク
日大山形高 13－9 北村山高

▼準決勝
米沢女高OG 22－14 山形教員
日大山形高 23－8 米沢女高

▼決勝
米沢女高OG 20（10－5、10－8）13 日大山形高

関東

第6回千葉県クラブカップ大会

（2月27、28日／我孫子市体育館）

▼1回戦
あさひク 26－21 若松ク

▼2回戦
柏南ク 23－22 道野辺ク
流山中央ク 43－13 市松ク
小金ク 33－21 スティーラーズ
市川FOG 27－23 あさひク

▼準決勝
市川FOG 34－17 柏南ク
小金ク 31－18 流山中央ク

▼決勝

市川FOG 23（16−11、7−6）17 小金ク

▼敗者戦1回戦

若松ク 12−0 道野辺ク
スティーラーズ 29−22 市松ク

▼同2回戦

若松ク 33−23 スティーラーズ

東京都中学校春季大会

（5月3、4、5日／江東区立大島中学校）

〈男子〉

▼1回戦

目黒四 25−8 修徳
瑞江三 14−10 深川五
雪谷 17−8 千歳
第三大島 14−13 瀬田
荏原四 16−13 東戸山
深川八 17−7 筑波大駒場
大島 24−6 安方
瑞江三 22−6 松江五
開成 15−8 雪谷
扇 20−15 杉森
本所 22−21 葛美
第三大島 26−3 天沼
上祖師谷 15−12 荏原四
高井戸 43−1 足立一

▼2回戦

桜木 17−8 目黒四
中野中央 19−16 常盤
西宮 9−8 深川三
向島 20−9 成城
豊島北 18−16 足立十五
大島 25−12 宮前
第三砂町 15−5 銀座
深川八 24−6 葛西第三
緑丘 17−10 小岩五
高井戸 24−12 深川八
大島 17−13 向島

▼3回戦

桜木 31−8 中野中央
西宮 22−13 瑞江三
扇 18−15 開成
第三大島 27−11 本所
高井戸 26−9 上祖師谷
深川八 34−9 第二砂町
向島 21−11 緑丘
大島 34−12 豊島北

▼4回戦

桜木 24−7 西宮
第三大島 21−9 扇
高井戸 24−12 深川八
大島 17−13 向島

▼準決勝

桜木 19−9 第三大島
大島 13−7 高井戸

▼決勝

桜木 13−4 大島

〈女子〉

▼1回戦

中野中央 11−6 葛美
深川八 20−8 立教女学院
辰巳 17−5 向島
高井戸 21−7 瀬田
上祖師谷 16−8 杉森

▼2回戦

桜木 26−4 中野中央
雪谷 18−17 第二砂町
深川八 18−7 常盤
辰巳 38−5 第三大島
宮前 10−3 笹塚
西宮 27−2 葛西第三
大島 15−2 上祖師谷

▼3回戦

桜木 14−7 雪谷
辰巳 23−8 深川八
高井戸 16−3 宮前
大島 30−5 西宮

▼準決勝

桜木 18−10 辰巳
大島 25−9 高井戸

▼決勝

大島 18−12 桜木

第23回群馬県高校総体

（5月14、15日／前橋商高）

〈男子〉

▼1回戦

前橋商 23−12 高崎工
下仁田 34−16 前橋育英
太田商 21−16 富岡実
桐生工 35−13 藤岡
前橋 30−10 桐生
玉村 23−21 高崎東

▼2回戦

富岡 41−10 前橋商
下仁田 22−14 桐生工
前橋 13−9 太田商
吉井 39−13 玉村

▼準決勝

富岡 32−10 前橋
吉井 25−12 下仁田

▼3位決定戦

下仁田 15−14 前橋

▼決勝

吉井 22（14−10、8−9）19 富岡

〈女子〉

▼1回戦

高崎東 20−11 下仁田
前橋商 15−11 商大付
高崎女 12−0 前橋東商
高崎市女 19−16 前橋市女

▼2回戦

吉井 28−4 高崎東
桐生西 35−1 前橋商
桐生女 12−10 高崎女
群女短付 39−3 高崎市女

▼準決勝

吉井 24−7 桐生女
群女短付 22−8 桐生西

▼3位決定戦

桐生西 22−8 桐生女

▼決勝

群女短付 20（12−9、8−5）14 吉井

東海

三重県春季選手権

（4月17、24日／四日市四郷高校ほか）

〈一般男子〉

▼1回戦

西笹川ク 30−16 四日市中央ク
全教員三重 41−26 尾鷲ク
鵜ノ森ク 23−14 鈴鹿工専
鳥羽商船 22−14 半田ク

▼2回戦

本田技研鈴鹿 54−10 西笹川ク
本田ク 43−19 全教員三重
鵜ノ森ク 30−25 三重教員
本田爽風会 キケン 鳥羽商船

▼準決勝
本田爽風会 28―27 本田ク
本田技研鈴鹿 53―8 鵜ノ森ク
▼決勝
本田技研鈴鹿 14―7 本田爽風会
〈高校の部・男子〉
▼1回戦
桑名北 14―12 高田
四日市四郷 20―10 津西
亀山 25―13 海星
四日市西 15―10 桑名工
津東 24―7 名張西
▼2回戦
桑名 26―10 桑名北
四日市南 23―3 川越
四日市 26―10 四日市四郷
四日市中央工 18―13 上野工
桑名西 26―17 尾鷲
津 21―15 四日市西
津東 22―8 津工
四日市工 28―5 亀山
▼3回戦
桑名 21―13 桑名西
四日市 22―12 津東
津 24―14 四日市南
四日市工 31―4 四日市中央工
▼準決勝
四日市工 26―8 四日市
桑名 27―14 津
▼3位決定戦
四日市 20―16 津
▼決勝
四日市工 14（8―7、6―6）13 桑名
〈高校の部・女子〉
▼1回戦
晩 48―4 尾鷲
松阪女子 24―5 亀山
四日市南 6―5 津東
津 15―0 津西
川越 17―8 桑名
四日市 19―13 名張西
四日市西 22―7 四日市四郷
四日市南 28―10 桑名西
▼2回戦
晩 38―2 川越
四日市南 15―4 四日市西
四日市 15―12 亀山
四日市商 43―4 津
▼準決勝
晩 25―6 四日市
四日市商 18―7 四日市南
▼3位決定戦
四日市 11―7 四日市南
▼決勝
晩 18（11―5、7―6）11 四日市商
〈中学の部・男子〉
▼1回戦
東員第二 12―6 明和
▼2回戦
白子 21―15 菰野
亀山 21―9 南
西笹川 21―6 東員第二
笹川 34―4 西朝明
▼準決勝
西笹川 25―9 白子
笹川 18―12 亀山
▼決勝
西笹川 9（6―3、3―5）8 笹川
〈中学の部・女子〉
▼1回戦
三雲 17―6 羽津
白子 15―10 拓植
▼2回戦
南 12―8 桔梗が丘
西朝明 16―0 大安
明和 11―4 阿山
西笹川 35―4 三雲
笹川 10―5 北勢
亀山 16―7 赤目
朝明 14―11 東員第二
菰野 26―4 白子
▼3回戦
西朝明 4―1 笹川
西笹川 20―2 南
亀山 9―7 明和
菰野 26―7 朝明
▼準決勝
西笹川 13―2 西朝明
菰野 12―9 亀山
▼決勝
西笹川 14（9―2、5―4）6 菰野

北信越

富山春季選手権

（4月24日、5月1日／富山市南体育文化センター）
〈男子〉
▼1回戦
想球会 32―20 北嶺会
▼2回戦
氷見クA 35―21 想球会
▼準決勝
氷見クA 43―17 八尾ク
西部ク 28―23 富山大
▼決勝
氷見クA 35（21―5、14―9）14 西部ク
〈女子〉
有磯・OG 29―11 富山大
桜球会 19―14 富山大
有磯・OG 25―21 桜球会
〔順位〕①有磯・OG ②桜球会 ③富山大

富山県高校春季選手権

（4月29日、5月1日、3日／高岡向陵高校）
〈男子〉
▼1回戦
富山 19―6 新湊
高岡商 13―9 水橋
富山工 17―17（PTC 0―3）富山商
伏木 8―6 雄山
富山東 19―8 高朋
八尾 24―6 富山南
▼2回戦
氷見 25―6 富山
高岡 29―2 工専
高岡商 16―10 呉羽
大門 32―10 富山工
小杉 31―17 伏木
大沢野工 19―16 富山中
高岡南 32―19 富山東
高岡向陵 25―19 八尾
▼3回戦
氷見 23―20 高岡
高岡商 17―15 大門

近畿

小杉 23－18 大沢野工
高岡向陵 41－16 高岡南

▼準決勝
氷見 24－17 高岡商
高岡向陵 41－18 小杉

▼3位決定戦
高岡商 28－22 小杉

▼決勝
高岡向陵 21（9－7、12－10）17 氷見

〈女子〉

▼1回戦
富山北 13－5 高岡第一
氷見 16－6 新湊
富女短 17－8 雄山
小杉 16－13 富山女
高岡女 9－8 高岡
高岡向陵 15－15 呉羽
1PTC2

▼2回戦
高岡商 27－6 富山北
富女短 20－7 氷見
小杉 24－6 高岡女
有磯 24－3 高岡向陵

▼準決勝
高岡商 34－12 富女短
小杉 12－11 有磯

▼3位決定戦
有磯 18－9 富女短

▼決勝
高岡商 23（9－4、14－6）10 小杉

第21回滋賀県室内総合選手権

（2月11日／彦根東高体育館）

〈男子〉

▼1回戦
野洲高 23－13 滋賀ハンターズ
芹汀送球会 18－11 長浜ク
高島ク 23－21 彦根東高
守山ク 16－9 大津自衛隊
京セラHC 棄権 彦根市役所
高島高 棄権 八幡ク

▼2回戦
滋賀教員 25－21 野洲高
高島ク 28－18 芹汀送球会
長浜北高 24－16 守山ク
京セラHC 23－12 高島高

▼準決勝
滋賀教員 31－23 高島ク
長浜北高 27－18 京セラHC

▼決勝
滋賀教員 24（10－11、14－8）19 長浜北高

※滋賀教員は8年連続8回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
彦根東高 13－9 多賀中

▼2回戦
滋賀ク 33－13 守山女
彦根東高 19－9 滋賀教員
松下ク 25－12 彦根西高
彦根商高 31－1 大津ク

▼準決勝
滋賀ク 18－11 彦根東高
彦根商高 22－8 松下ク

▼決勝
彦根商高 23（11－6、12－7）13 滋賀ク

※彦根商は3年ぶり5回目の優勝

第8回京都府高校選手権

（4月16、17、23、24、29日／光華大原野グラウンドほか）

〈男子〉

▼1回戦
城南 25－11 鴨沂
京都西 34－14 同志社
塔南 22－10 田辺
北陵 30－4 伏見工
桂 24－9 城南
久御山 33－11 宇治
西乙訓 20－6 南八幡
洛北 17－12 京都商
東宇治 42－8 洛東
洛水 25－5 山城
向陽 15－11 東山
桃山 19－15 京都西
北嵯峨 30－5 塔南
乙訓 17－13 洛陽工
堀川 19－14 成章
嵯峨野 14－10 城陽
洛西 14－13 東稜
西宇治 19－10 洛星
日吉丘 33－19 平安
大谷 38－8 北稜

▼3回戦
桂 21－11 久御山
洛北 19－7 西乙訓
洛水 18－11 東宇治
向陽 15－10 桃山
北嵯峨 25－5 乙訓
嵯峨野 23－12 堀川
西宇治 20－11 洛西
大谷 33－16 日吉丘

▼準々決勝
桂 24－15 洛北
向陽 18－12 洛水
北嵯峨 26－15 嵯峨野
大谷 15－13 西宇治

▼準決勝
桂 14－12 向陽
大谷 24－16 北嵯峨

▼3位決定戦
向陽 20－12 北嵯峨

▼決勝
大谷 16（9－5、7－4）9 桂

〈女子〉

▼1回戦
田辺 34－5 桂
洛北 29－9 日吉丘
洛水 18－15 東稜
光華 16－13 洛西
洛東 25－3 乙訓
精華 8－7 城南
向陽 25－4 鴨沂
西京商 11－9 山城
西宇治 37－11 嵯峨野
塔南 14－9 北稜
久御山 12－7 西山
西乙訓 7－6 南八幡
桃山 13－10 北嵯峨

▼2回戦
東宇治 20－9 田辺
洛北 11－7 洛水
光華 21－4 洛東
向陽 19－2 精華
明徳商 31－5 西京商

西宇治 20－9 塔南
西乙訓 9－8 久御山
京都女 22－5 桃山

▼3回戦
東宇治 32－9 洛北
向陽 16－14 光華
西宇治 28－8 明徳商
京都女 13－7 西乙訓

▼準決勝
東宇治 17－3 向陽
京都女 13－11 西宇治

▼3位決定戦
西宇治 13－6 向陽

▼決勝
東宇治 18（7－7、11－4）11 京都女

第39回奈良県高校春季大会

（4月29、30、5月1日／生駒市総合公園体育館、生駒市市民体育館）

〈男子〉

▼1回戦
郡山 19－12 広陵

▼2回戦
正強 17－11 郡山
東大寺 17－13 片桐
高田東 24－14 富雄
添上 21－11 奈良
生駒 12－10 上牧
畝傍 13－11 天理
斑鳩 16－12 一条
橿原 13－7 奈良工

▼3回戦
正強 20－10 東大寺
添上 19－10 高田東
生駒 15－11 畝傍
橿原 14－11 斑鳩

▼準決勝
正強 13－8 添上
橿原 15－14 生駒

▼3位決定戦
添上 22－11 生駒

▼決勝
橿原 11（4－4、7－5）9 正強

〈女子〉

▼1回戦
富雄 14－12 郡山
一条 11－10 上牧

▼2回戦
添上 26－6 富雄
短大付 19－3 十津川
片桐 15－13 生駒
白藤 19－1 一条

▼準決勝
添上 14－8 短大付
白藤 22－6 片桐

▼決勝
添上 11（3－2、8－3）5 白藤

和歌山県春季選手権

（4月29、30日、5月1、3日／県和歌山商高ほか）

〈一般男子〉

▼1回戦
金清ク 22－21 和歌山ク
和歌山高専 24－17 箕島ク

▼2回戦
住友金属 25－18 金清ク
御坊ク 54－14 桐蔭ク
那賀ク 38－17 和歌山医大
県和商ク 27－16 和歌山高専

▼準決勝
御坊ク 23－19 住友金属
県和商ク 23－13 那賀ク

▼決勝
御坊ク 20（8－10、9－7、2－0、1－2）19 県和商ク

〈高校男子〉

▼1回戦
県和商 53－1 和東
笠田 15－13 新宮商
耐久 22－17 貴志川
粉河 29－24 近大附和歌山
新宮 29－25 桐蔭
箕島 38－19 海南
市和商 9－8 御坊商工

▼2回戦
那賀 34－7 県和商
耐久 22－9 笠田
粉河 32－17 新宮
市和商 18－17 箕島

▼準決勝
那賀 26－13 耐久
市和商 23－16 粉河

▼決勝
那賀 21（10－4、11－5）9 市和商

〈高校女子〉

▼1回戦
粉河 22－9 新宮
貴志川 19－10 箕島
笠田 15－9 御坊商工
那賀 28－6 県和商

▼準決勝
粉河 29－7 貴志川
那賀 16－6 笠田

▼決勝
粉河 16（9－7、7－4）11 那賀

〈中学男子〉

▼1回戦
那賀 21－3 紀伊
岩出二 27－10 打田
有功 17－15 金屋

▼2回戦
岩出 25－13 近大附和歌山
那賀 28－5 湯浅
白馬 25－24 岩出二
貴志川 32－7 有功

▼準決勝
岩出 22－9 那賀
貴志川 29－11 白馬

▼決勝
岩出 13（7－5、6－7）12 貴志川

〈中学女子〉

▼1回戦
岩出二 21－17 桃山
貴志川 21－7 那賀
打田 9－8 金屋
岩出 33－4 粉河

▼準決勝
岩出二 11－10 貴志川
岩出 25－8 打田

▼決勝
岩出 19（8－8、11－6）14 岩出二

中国

全国高校選抜中国地区予選

（2月13、14日／島根県立体育館）

〈男子〉

▼リーグ戦

尾道 27（16—7、11—7）14 飯南（島根）
境（鳥取）18（8—7、10—9）16 総社（岡山）
岩陽（山口）17（7—7、10—8）15 尾道
飯南 29（13—10、16—11）21 総社
岩陽 23（12—8、11—8）16 境
尾道 21（13—8、8—5）13 境
岩陽 17（5—4、12—5）9 総社
境 19（10—8、9—10）18 飯南
尾道 21（10—7、11—6）13 総社
岩陽 31（17—8、14—6）14 飯南

〈順位〉
①岩陽（山口・4勝）
②尾道（広島・3勝1敗）
③境（鳥取・2勝2敗）
④飯南（島根・1勝3敗）
⑤総社（岡山・4敗）

〈女子〉

▼リーグ戦

玉野光南（岡山）25（16—5、9—1）6 松江市女（島根）
山陽女（広島）28（17—5、11—5）10 境（鳥取）
岩国商（山口）21（12—7、9—6）13 玉野光南
境 26（18—4、8—10）14 松江市女
山陽女 23（9—8、14—5）13 岩国商
山陽女 22（12—3、10—5）8 玉野光南
岩国商 24（13—9、11—3）12 境
山陽女 25（12—4、13—4）8 松江市女
境 24（17—11、7—11）22 玉野光南
岩国商 24（13—3、11—5）8 松江市女

〈順位〉
①山陽女（広島・4勝）
②岩国商（山口・3勝1敗）
③境（鳥取・2勝2敗）
④玉野光南（岡山・1勝3敗）
⑤松江市女（島根・4敗）

山口県春季一般選手権

（4月2、3日／県立体育館）

〈男子〉

▼1回戦

山口県教員A 36—16 徳山ク
山口大 23—17 徳山曹達
興亜石油 27—24 山口県教員B
下関ク 37—23 海上自衛隊

▼準決勝

山口県教員A 22—15 山口大
下関ク 28—16 興亜石油

▼3位決定戦

山口大 29—12 興亜石油

▼決勝

山口県教員A 34（16—17、18—8）25 下関ク

〈女子〉

▼1回戦

山口大 25—13 ゆうほく

▼準決勝

CGC 30—11 山口大
徳山ク 38—4 周南ク

▼決勝

CGC 21（11—8、10—11）19 徳山ク

第43回岡山県高校春季大会

（4月10、16、17日／倉敷商高）

〈男子〉

▼1回戦

総社南 20—13 関西
津山 16—13 青陵
西大寺 15—12 岡山工
倉敷商 22—8 津山工
備前東 12—5 落合
玉野 24—8 和気
東岡工 33—5 矢掛
総社 12—0 邑久
吉備 14—13 光南
金川 15—12 大安寺
児島 32—2 福渡
水島工 29—10 芳泉
一宮 16—12 朝日
倉敷南 8—5 古城池
天城 24—9 操山

▼2回戦

倉敷工 15—6 総社南
西大寺 19—7 津山
倉敷商 17—13 備前東
東岡工 26—1 玉野
総社 16—8 吉備
児島 21—6 金川
水島工 24—12 一宮
天城 19—11 倉敷南

▼3回戦

倉敷工 17—11 西大寺
東岡工 21—13 倉敷商
総社 15—10 児島
天城 20—16 水島工

▼準決勝

東岡工 9—7 倉敷工
総社 25—16 天城

▼3位決定戦

倉敷工 10—8 天城

▼決勝

総社 18（9—6、9—5）11 東岡工

※総社は2年ぶり4回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦

倉敷中央 14—8 一宮
津山 14—9 大安寺
操山 8—8 真備（1 PTC 0）
玉野 15—8 金川
芳泉 11—6 朝日
青陵 8—8 天城（2 PTC 1）

▼2回戦

総社南 16—8 津山商

光南 23－10 倉敷中央
倉敷商 10－6 津山
古城池 16－8 落合
総社 12－5 操山
児島 18－11 玉野
倉敷南 17－6 芳泉
備前東 19－10 青陵
西大寺 28－5 総社南

▼3回戦
光南 31－5 倉敷商
総社 22－10 古城池
児島 22－9 倉敷南
西大寺 25－9 備前東

▼準決勝
光南 26－9 総社
西大寺 23－12 児島

▼3位決定戦
総社 14－11 児島

▼決勝
西大寺 19（9－6、10－3）9 光南

※西大寺は2年ぶり4回目の優勝

中国高校鳥取県予選

（4月16、17日／米子南商高）

〈男子〉

▼1回戦
米子北 16－12 境港工
倉吉東 16－14 米子西
米子東 16－13 倉吉工

▼準決勝
境 29－11 米子北
米子東 23－5 倉吉東

▼決勝
境 24（9－3、15－10）13 米子東

▼敗者復活1回戦
倉吉工 24－7 米子西

▼同2回戦
倉吉工 23－15 米子北
境港工 24－5 倉吉東

▼同3回戦
倉吉工 18－13 境港工

〔順位〕①境②米子東③倉吉工④境港工

〈女子〉

▼1回戦
米子西 21－7 倉吉産
米子東 22－9 倉吉東
米子南商 13－10 米子北

▼準決勝
境 27－12 米子西
米子南商 21－10 米子東

▼決勝
境 26（10－5、16－5）10 米子南商

▼敗者復活1回戦
米子北 23－9 倉吉東

▼同2回戦
米子北 21－7 米子西
米子東 28－3 倉吉産

▼同3回戦
米子東 10－9 米子北

〔順位〕①境②米子南高③米子東④米子北

第39回中国高校選手権

（5月7、8日／岡山工業高校、岡山市総合文化体育館）

〈男子〉

▼1回戦
岩陽 22－7 倉敷工
呉昭和 33－17 倉吉工
境 32－11 松江南
総社 19－17 岩国
尾道 22－5 米子東
倉敷天城 22－15 江津
飯南 18－16 東岡山工
下松工 24－12 修道

▼2回戦
岩陽 29－14 姿昭和
境 18－17 総社
尾道 24－18 天城
下松工 30－12 尾道

▼準決勝
岩陽 19－11 境
尾道 13－11 下松工

▼決勝
岩陽 18（9－9、9－6）15 尾道

〈女子〉

▼1回戦
岩国商 32－7 江津
児島 12－5 安芸南
松江市女 24－8 米子南
山陽女 19－6 総社
西大寺 16－14 高水
境 32－6 広島第一女
玉野光南 33－14 米子東
徳山商 30－3 松江第一女

▼2回戦
岩国商 25－7 児島
山陽女 31－9 松江市女
西大寺 14－12 境
徳山商 18－13 玉野光南

▼準決勝
岩国商 14－13 山陽女
徳山商 18－15 西大寺

▼決勝
岩国商 20（9－8、11－8）16 徳山商

九州

鹿児島県中学校新人大会

（1月23、24日／鹿児島市民体育館）

〈男子〉

▼予選リーグA組
国分 12－8 伊敷
東谷山A 11－10 重富
国分 8－8 東谷山A
伊敷 9－7 重富

▼同B組
谷山 15－7 東谷山B
鹿児島大附 19－6 東谷山B
鹿児島大附 20－11 谷山

▼決勝トーナメント1回戦
国分 19－7 谷山
東谷山A 21－7 鹿児島大附

▼決勝
国分 18（10－4、8－5）9 東谷山A

〈女子〉

▼リーグ戦
重富 13－11 東谷山
鹿児島大附 23－4 谷山
重富 21－9 谷山
鹿児島大附 16－11 東谷山
東谷山 31－2 谷山
重富 23－10 鹿児島大附

〔順位〕①重富②鹿児島大附③東谷山④谷山

第19回鹿児島・宮崎対県

（2月21日／国分市体育館・隼人町体育館）

〈中学・男子〉

▼準決勝
山田 38－9 東谷山
小林 19－14 国分

▼決勝
小林 19（9－11、13－6）17 山田

〈高校・男子〉

▼準決勝
宮崎南 23－21 鹿児島工
大島 35－24 宮崎西

▼決勝
大島 33（18－11、15－17）28 宮崎南

〈中学・女子〉

▼準決勝
北川 17－6 鹿大附
重富 20－9 山田

▼決勝
北川 19（9－5、10－4）9 重富

〈高校・女子〉

▼準決勝
国分実 19－17 本庄
牧園 20－13 小林商

▼決勝
牧園 22（13－4、9－4）8 国分実

asics TIGER®



アシックスは
オリンピックキャンペーンの
オフィシャルスポンサーです。

百個のグリップ力。アウトドア専用。

マルチコンソールが、グラウンドを確実にグリップする。初のアウトドアハンドボールシューズ、スカイハンド®SL。

アウターソールには、片足に100個以上のポイントを独特の形状で配置。アウトドアのグラウンドコンディションに確実に応えるハンドボールシューズの登場です。側面には傾斜をつけ、倒れ込みシュートを打ちやすく。かかと部を拡げて着地衝撃を吸収しやすい形状に。大空での空中戦を、十二分に意識した、初めてのハンドボールシューズです。

品番 THH501 品名 スカイハンド®SL
メーカー希望小売価格 ¥9,200
カラー/ホワイト×レッド
ホワイト×ネイビーブルー
サイズ/22.5～28.0cm

株式会社アシックス

■お問い合わせは株式会社アシックス消費者相談課までどうぞ。〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 ☎(078)303-2233(専用) (078)303-3333(大代)
〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 ☎(03)624-1814(専用) (03)624-2221(大代)

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二七四号
昭和四十年六月
第三種郵便物認可
昭和六十三年五月二十五日　印刷
昭和六十三年六月一日　発行
東京都渋　南一―一―一
電話　代表（　46）二三六一
振替　東京　六―五八三四八番
編集兼発行人　安藤純光
定価三百五拾円
（年間購読料三千三百円）